

## (5) ミニмум・エッセンシャルズを示したシラバスの活用

シラバスに示す学習のねらいが、単元レベルの目標にとどまり、しかも漠然とした記述になってしまうと、生徒には具体的な内容がわかりにくくなってしまいます。そこで、生徒が最低限身に付けるべき基礎・基本（ミニмум・エッセンシャルズ）を明示することも考えられます。また、自己評価欄やチェックリストを設けると、生徒に学習の振り返りを促すこともできます。

### 「ミニмум・エッセンシャルズ」とは

[意味] 生徒が最低限身に付けるべき基礎・基本

[作成のねらい]

自校の生徒として最低限身に付けておくべき基礎学力を明示して、生徒の学力保証につなげる。

学習内容と目標の重点化により、生徒に学習の指針を示す。

学習内容を重点化して示すことにより、主体的な学習を導き、基礎学力を身に付けさせる。

自己評価欄やチェックリストを設けることで、生徒に学習の振り返りを促す。

計画的な学習指導の指針となり、指導方法や評価方法の改善につなげる。

学習内容を重点化し、学校としての指導事項を複数の指導者間で共通理解する。

### ポイント 10

シラバスに示した学習のねらいやミニмум・エッセンシャルズに対応した確認テストを作成し、生徒自身の学習の振り返りを生かしながら、指導事項の確実な定着を図ります。

次の例では、自校の生徒として「完全に理解すべき事項」を、「動詞 力変・サ変」のように具体的に示しています。その上で、到達目標を達成できたかどうかを自己評価させるねらいで作成した確認テストを、月に1度実施しています。確認テストによって生徒自身に学習を振り返らせ、その後の学習に結び付けさせます。また、「努力を要すると判断される」生徒に対しては、復習を促します。そして、再テストにより指導事項の達成状況を確認し、基礎・基本の定着に努めています。

ミニマム・エッセンシャルズを示したシラバス

実施 予定	授業での素材(単元名)と主な学習内容		完全に理解すべき 事項	
	学習目標	古典		主な学習内容
4	《古文》 ・音読に慣れる。 ・10の品詞を知る。 ・用言(動詞、形容詞、 形容動詞)の活用がわ かる。 ・内容を大まかに読み 取ったり、表現に即 して読み味わったり して、古文に親しむ。	宇治拾遺物語 「検非違使忠明い さかひのこと」	・歴史的仮名遣い ・10品詞 ・動詞の活用 *京童部があさまし かった理由を考え る。	動詞 力変・サ変・ ナ変・ラ変・ 上一段・下一段 四段・上二段・ 下二段

ミニマム・エッセンシャルズに対応した確認テスト

受く	起く	行く	基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形

4 次の動詞の活用表を完成させよ。  
 五年六年のうちに、千年や過ぎにけむ。( )

3 次の傍線部の動詞を文法的に説明せよ。  
 その里にいとなまめいたる女はらから住みけり。( )  
 都のうちに多き人、死なざる日はあるべからず。( )  
 これをまことかとたづぬれば、昔ありし家はまれなり。( )  
 八月十五日ばかりの月にいでみて、かぐや姫…( )  
 西より東へ蹴て渡りけり。( )

2 次の( )の中に適当な動詞の終止形を入れよ。ただし、複合動詞は含まない。  
 一語のもの 下一段活用 ( )  
 二語のもの 力行変格活用 ( )  
 ナ行変格活用 ( )  
 ラ行変格活用 ( )  
 四語のもの ( )

1 次の語はどの活用形の後に続くか答えよ。  
 て・たり( ) 形 こと・もの( ) 形  
 ど・ども( ) 形 ず・む( ) 形

古典第一回確認再テスト 動詞の活用

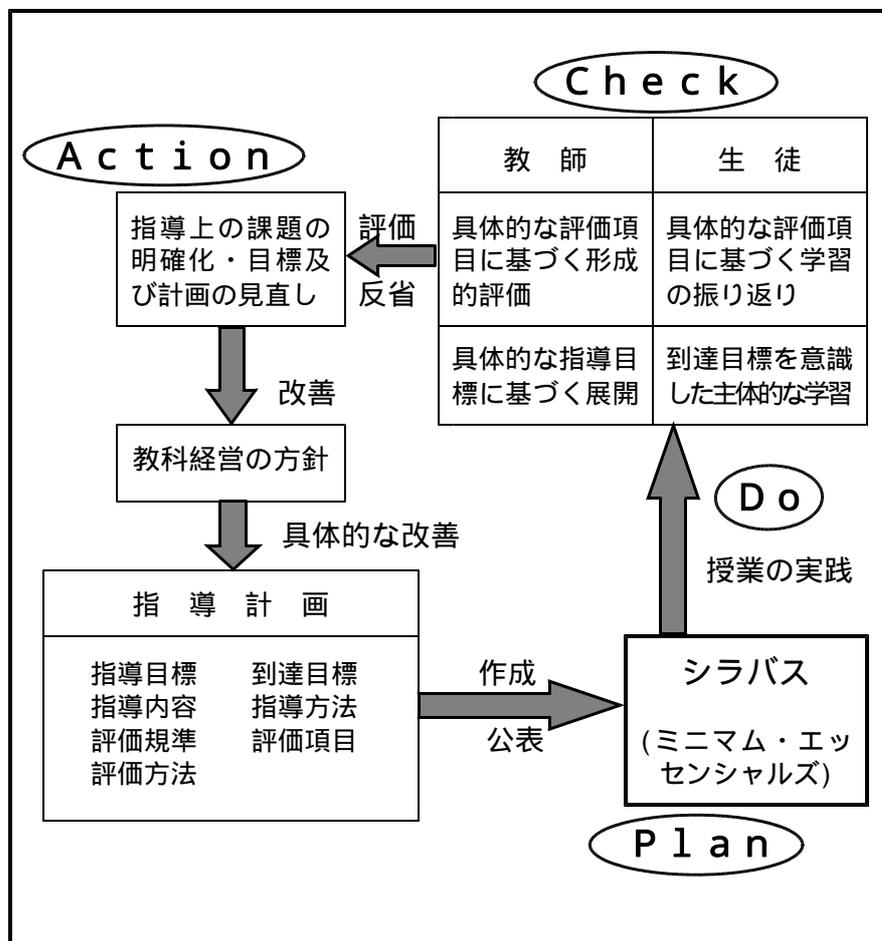
1 次の傍線部の動詞を文法的に説明せよ。  
 よろづのこに使ひけり。( )  
 都のうちに多き人、死なざる日はあるべからず。( )  
 京に早く上げたまひて、( )  
 八月十五日ばかりの月にいでみて、かぐや姫…( )  
 我朝ごと夕ごとに見る竹の中におはするにて知りぬ。( )

## ポイント 11

シラバスに示した学習のねらいやミニмум・エッセンシャルズに基づいて、自己評価や授業評価を行い、シラバス導入の効果や活用状況を検証します。

シラバスに、確認テスト、自己評価、授業評価を関連させ、Plan（シラバス） Do（授業の実践） Check（確認テスト、自己評価、授業評価） Action（改善）という流れを作り、教科指導の改善に生かそうという教師側の意図は、生徒にも伝わって学習活動に反映されることが期待されます。

### シラバスと評価の工夫による授業改善の全体像



次の例は、シラバスに示したミニмум・エッセンシャルズに関する到達状況を、数回のテストで確認するとともに、生徒に学習の振り返りを促したものです。また、単元の終わりに生徒に自己評価及び授業評価をさせ、シラバス導入の効果や活用状況を検証しています。

せっかく作成したシラバスも、配付しただけでは充分には活用されません。この例のように、教師自身が指導の改善のためにシラバスを活用したり、生徒にシラバスを活用させる場面を意図的、計画的に設けたりすることも大切です。

### ミニマム・エッセンシャルズを示したシラバス

学期	月	学習内容 (教材名)	学習のねらい (特に注意すべき点)	学習活動	試験
2	9	源氏物語 「若紫」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・推量の助動詞「む・べし・らむ・めり・(むず・けむ・まし・らし)」を理解します。</li> <li>・助動詞の解釈に注意して、古文独特の表現を味わいます。</li> </ul>	・本文と現代語訳との「比較読み」をします。	中間テスト

### 確認テストの実施

### 自己評価

〔自己評価〕 「源氏物語」 若紫

自分のことについて教えてください。

- 1 シラバスの「学習のねらい」に応じ、必要な準備をして授業に臨みましたか。  
( A : 51% B : 45% C : 4% )
- 2 授業に真剣に取り組み、プリントやノートをしっかりまとめることができましたか。  
( A : 81% B : 19% C : 0% )
- 3 授業中指示されたこと以外にメモを取ったり質問をしたりするなど、自ら進んで学習することができましたか。  
( A : 39% B : 53% C : 8% )

### 授業評価

〔授業評価〕 「源氏物語」 若紫

先生の授業について教えてください。

- 1 シラバスの「学習のねらい」が、授業の中で明確に示されていましたか。  
( A : 81% B : 19% C : 0% )
- 2 本文全文と口語訳を掲載したプリントは、古文と現代文の微妙な違いを理解する手助けとなりましたか。  
( A : 67% B : 33% C : 0% )
- 3 推量の助動詞についてわかりやすく説明がなされていましたか。  
( A : 76% B : 22% C : 2% )
- 4 授業の進む早さは適切でしたか。  
( A : 56% B : 42% C : 2% )
- 5 先生の話し方は明瞭でわかりやすかったですか。  
( A : 78% B : 22% C : 0% )

「源氏物語」 若紫 の授業の感想を自由に書いて下さい。

- ・現代語訳と古文を読み比べることで、助動詞の意味がとりやすかった。
- ・授業中に先生に質問するようになった。